

2022.6月

# 銀の汗 Again

A面

## 2人で夜まで1,300㎡



いつ降ってきてもおかしくない  
空の下  
仮に降ってきても  
一粒の雨も材料には  
入れさせない様に  
養生する応援の石川OP

(株)ショーテック様:2人で1,300㎡ 回りは真っ暗PM19時

3月下旬から4月にかけて、菜の花が咲くころに降るあたたかい長雨を「菜種梅雨」というそうです。

そんな菜種梅雨に悩まされた現場が、立飛リアルエステート(1,300㎡)でした。

予定施工日になると決まって雨が降る⇒延期の繰り返し。どんどん工期末が近づき、保護仕上げ材の塗布を考えた場合今日しか平場を塗るチャンスがないまで追い詰められた2層目の当日、またもや前日は夜通し雨が降り朝には止んだものの、いつ雨が降ってもおかしくない予報でした。

一か八か施工はGOとなりましたが、当日お客様からの職人様は、たったの2名?(1層目は4名)

かっぱぎ(水切り作業)から始まり、実施工開始はお昼前からのスタートになりました。2人施工でクタクタになりながらも今日終わらせなければならぬとの使命感に燃え、何とか1,300㎡をやり遂げ、ホースを降ろした時間は19時でした。すっかり回りが暗くなった中、お互い何故だか達成感と心地よい疲労感を胸に暗くなった現場で気持ちよく記念撮影。たった2人でも1,300㎡をやり遂げることができるUNマシン。「本当に助かりましたありがとう」と言われた曾根OPは「次は最低4名でお願いします～」の言葉を飲み込み、ガッチリと握手をかわしました。



ととのいました

2人で夜までUN施工とかけて、ナイツの漫才とと説く  
ナイト(ナイツ)になっても、安定した吐出(ツッコミ)が出ます。

## 新九州支店開設



化研マテリアル九州支店



事務所内

2022年4月1日(金)より  
福岡県福岡市南区に  
化研マテリアル(株)九州支店が  
開設の運びとなりました。

事務所1階200坪、2階200坪  
駐車場15台、10坪の危険物倉庫を配備。

化研マテリアル福岡営業所と販売G店の  
エヌケイマテリアル(株)が合併し  
30名近い所帯で  
九州地区の大前進を開始致します。



危険物倉庫と一般倉庫



営業兼UNマシンオペレーターの倉富担当

九州地区には2017年より  
UNマシン6号機が配備されていましたが  
今後は本社のUNチームとも更に連携を  
強化して、ウレタン圧送に取り組んで  
参ります。(どんたく・どんたく!)

近日、四国愛媛県にてUN施工があり  
九州のUN6号機がスタンバイしています。  
(どんたく・どんたく!)



2022.6月

# 銀の汗 Again

B面

## 特販チーム打合せ



熱中症対策新商品特販打合せ  
4月新たに特販担当となった宮崎担当と服部主任が、熱中症対策新商品「アイスネッククーラー」の打合せを行いました。アルミプレートで首の血流をダイレクトに冷やし体感マイナス15度。爽快な冷感が長続きします。この夏のイチオシ商品として拡販に取り組んで参ります。



特販担当: 宮崎・服部

アタックベース: 清水様

## UN4号機共有部品取り出し



内部分解中のマシン本体

UNマシン4号機が経年劣化寿命となり、現在UNマシン8号機は陸運局にて車検中6月、新8号機こけら落とし予定で進んでいます。

現在稼働中のUNマシン3・5・7号機でも使用可能な共有部品(ギア・リレー等)を取りだし共有部品在庫としてメンテナンスを行った後保管いたします。

臓器移植のように主要な共通部品を取り出したUNマシン4号機に、感謝の敬礼をしてオペレーターは4号機を磨きはじめました。



## 産廃現場アイデア進化系

産廃廃液処理時の現場お客様作業員の悩みは廃液の飛び散り跳ね返りを防ぎたいこととドラム缶に移す時、刷毛・ローラー・ウェスなどの異物混入を防ぎたいの声を聞き当初、左にあるような「じょうご」を考えた産廃ドライバーその後、試行錯誤があり現在最終的に、右にあるような簡易型に落ち着き、お客様の声を集めています。こんなのが安くて・便利で・簡単なものがあればイイと思うものは、机上ではなく現場から出てきます現場とのアンテナを常に磨きながら銀の汗を流して行きたいと思えます。



UNマシン.COMサイトが起ちあがりまして  
ブログ銀の汗にUNの活動状況一部掲載しています 銀の汗バックナンバーも掲載

[www.un-machine.com](http://www.un-machine.com)

yahoo検索ワード第1位(ウレタン・省カ化など)

UNマシンにて検索

### 【sweat of silver】

2022年のゴールデンウィークは10日を超える、魁漢一人記念旅に出ました。別府に着いた時、密かにネットで「別府温泉 混浴」で検索した泥湯が有名な温泉に向かいました。ローカルな昭和感漂う、その温泉は設備が迷路のようで味のある温泉でした。早速露天混浴風呂に向かいましたが、野郎ばかりがギラギラした目で泥湯に浸っていました。全く混浴になる雰囲気が無い中誰よりも湯に浸っていました。最終的にはこの露天に向かうルート設計にかなりの難があることがわかりました。この難所を乗り越えて向かう女人はその時点で、男以上の胆力のある方になります。結局そんな人は現れるわけもなく、指紋が消えかけた両手を見つめながらコーヒー牛乳を飲み干し、その夜は別府駅近辺で夕食をしようと歩き回りました。駅前には別府温泉祭りの余韻があり、多くの人が歩いています。2度来店混雑で断られ仕方なくチェーン店のすし屋で腹捲えを終え、さてと向いの通りを見たとき、ライブハウスが見え満員の貼紙がしてありました。そして貼紙を見つめるギターを抱えた青年とその恋人がいました。私も近づき、そして扉を開き店員と交渉して3名を中に入れてもらいました。そのカップルと同じテーブルでオールディーズのバンドの唱を聴きました。カップルの青年からは「おとうさん、どちらからこられたんですか？」との問いかけがあり、その後2時間ですっかり仲良くなりましたが、「おとうさん」と呼ばれたことに新鮮な感動がありました。日常は役職名とか、さん付けで呼ばれることが多く、会社を離れたコミュニティでも振り返れば私がペーペーの立ち位置なので、さんでよばれていました。カップルの可愛い娘さんは私の娘と同じ年齢でした。そこで昨年娘は結婚した事、そして是非2人が幸せになってもらいたい旨話しました。いつの間にかオトウサンの気持ちになって若い2人にエールをおくり別れました。ふと手を見るとシワシワな指紋が見えてきました。